

ヤマシギ

Scolopax rusticola Linnaeus

チドリ目シギ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

県内の山地に生息するが個体数は少なく、繁殖している可能性もあるが確認された例はない。冬期の観察例も少ないにもかかわらず狩猟鳥であり、個体数の減少が危惧される。

形態

全長35cm。翼長18～22cm。体重200～446g。まっすぐで長い嘴をもった太った大きなシギ。背面はオリーブ色味のある褐色で、翼には大きな暗色斑が多数あり、背中には太い縦縞がある。腹側は白っぽく褐色の細い横縞が多数あり、胸にV字型の黒斑がある。頭頂はややとがり、黒い横縞がある。眼がかなり後方についていて両眼でいつも全方位が見える。

国内分布

北海道から本州中部にかけてと伊豆諸島などで繁殖記録があり、東北地方南部から四国、九州、沖縄にかけての各地で越冬する。

県内分布

舩倉島で巣と卵が見つかった例があるが、それ以外には繁殖の確認例はなく、ほとんどが冬期の記録である。大聖寺川下流、野田山、医王山などで記録がある。渡りの時期には海岸林や舩倉島でも観察される。

生態

繁殖期には広葉樹などの林にすみ、「キチッ、キチッ、ブーブー」と飛びながら鳴く。地上にくぼみをつくって4卵を産む。抱卵期間は約21日で、15～20日ぐらいで巣立つ。餌はミミズ、クモ類、昆虫類などの地上性の小動物で、たまに植物の茎や種子を食べる。

生息地の条件

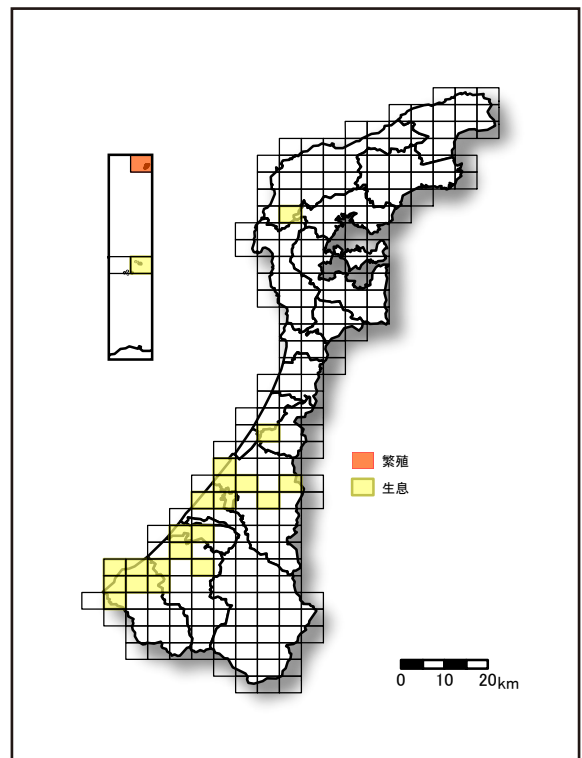
餌となる地上性小動物が豊富であること。営巣場所が地上であるため外敵の侵入が少ないこと。特に人間の活動圏に近い森林に繁殖するため、人間の踏み込みが少ない森林であること。

生存の危機

本県ではもともと生息数が少ない上に狩猟鳥に指定されている。(A)

特記事項

狩猟鳥。



県内の分布